

様式 4

令和 7 年度第 8 回
富士見市社会教育委員会議
議事録

日 時	令和 8 年 3 月 1 1 日 (水)		開会 午後 7 時 0 0 分	閉会 午後 9 時 0 5 分		
場 所	富士見市立中央図書館 2階 視聴覚ホール					
出 席 者	委 員	渡邊 (知) 委員	関野委員	戸田委員	深瀬委員	本田委員
		○	○	○	○	○
		八木橋委員	河村委員	渡邊 (誠) 委員	檜山委員	亀森委員
		○	○	欠	○	○
事 務 局	生涯学習課 副課長、主任、主事補					
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 0 人)					
議 題	1 あいさつ 2 協議事項 ・ 地域学校協働本部について 3 その他					

議 事 内 容

1 挨拶

2 協議事項

【議 長】 前回の内容を踏まえ議論に入っていく。前回発表いただいた内容を分類分けしたものが今回の配布資料である。大きく分けると、検討の進め方、本部の在り方、本部を機能させるポイントの3つに分けられるため、これを一つ一つ考えていく。まずは本部の在り方のイメージについて共通認識を図りたい。それと併せて提言の内容についてもイメージしながらこれからの議論を進めていきたい。まずは事前配布資料を用いて、本部の在り方について、イメージのすり合わせを行う。

議長が配布資料を基に説明。

【委 員】 現在富士見市の令和8年第1回市議会の定例会が行われており、コミュニティ・スクール協議会委員の報酬について議案第4号で審議されている。学校運営協議会は3月定例会で可決されると、4月1日から設置の方向で動いていくことを共有したい。

【事務局】 コミュニティ・スクールの担当課である学校教育課が、準備に向けて学校と調整を行っている。現在の学校運営支援者協議会を土台とし、今後は教育委員会がコミュニティ・スクール協議会委員を任命し、報酬を支払う段取りを進めている。

【委 員】 現在、学校運営支援者協議会の委員として会議に参加している。以前会議の際に委員宛にアンケートが行われた。学校独自に開始するとしても軌道に乗るまでは数年かかるのではないかと考えている。

【議 長】 コミュニティ・スクールに向けては順調に進んでいるため、地域学校協働本部についての意見を頂戴したい。

【委 員】 コミュニティ・スクールを実現することのメリットはあるのか。なぜ今進めているのか。

【事務局】 国の流れとして、コミュニティ・スクールを推進している。地域学校協働活動の一つに富士見市でも実施している地域子ども教室があり、その事業に対する県の補助金の交付要件としてコミュニティ・スクールの実施がある。コミュニティ・スクールを推進するメリットについては、配布資料にも理想が書かれている。コミュニティ・スクールは、国として社会に開かれた教育を推進するために、実践できる体制を整えたものである。それだけでなく、地域としても学校を核とした地域づくりを推進していくためには、コミュニティ・スクールだけでなく地域学校協働本部も必要であり、その両輪で取り組むことを推進しているのが国の考えであると認識している。

【議 長】 コミュニティ・スクールは令和8年度からやらなくてはならないものなのか。

- 【事務局】 コミュニティ・スクールの設置が努力義務となっている。富士見市では令和8年度に開始する方針である。
- 【委員】 富士見市として学校運営協議会を実施する方向で動いているが、地域学校協働本部については、市議会だけでなく教育委員会議でも話が全く上がっておらず、来年度中に地域学校協働本部を作る意思が感じられない。本市としてどうしたいのかが見えておらず、この会議で意見を詰めても実現されない可能性があるのではないかと。
- 【議長】 地域学校協働本部についての話が具体的に進んでいないからこそ、この会議で話し合って意見を出し、教育委員会に提言していくという認識である。
- 【委員】 ここで教育委員会に提言することにより、地域学校協働本部に向けての準備がスタートするのではないかと。
- 【委員】 いつ実現されるかわからないが、議論していくという認識でよろしいか。
- 【議長】 おっしゃる通りであるが、教育委員会が地域学校協働本部を早く実現したいと思えるような魅力的な提言をしていきたい。
- 【委員】 まずは出ている意見の違いを整理したい。
- 【議長】 組織の要件で言うと、現在ある学校運営支援者協議会をベースとしたものにする意見と、全く別の組織にするという意見がある。
- 【委員】 組織の構成員や要件については同じような印象を受ける。
- 【議長】 構成員については、全体的になるべく幅広い方に参加してもらおうという考えが共通している。
- 【委員】 組織の在り方については、学校運営支援者協議会とは別の組織にしないと、意味がないと思っている。既存の学校運営支援者協議会はどのような組織なのか。
- 【委員】 学校によってそれぞれだが、多いのは町会の役員、民生委員、社会教育施設の館長、大学教授や元学校長等の学識経験者、PTA会長等が入っていることが多い。
- 【委員】 他には幼稚園や保育園の園長、学童の指導員が参加しているケースもある。
- 【委員】 各学校何人くらいいるのか。
- 【委員】 現在の学校運営支援者協議会は10～12名程度であり、来年度からの学校運営協議会も同規模の予定である。その中には校長、教頭、教務主任も含まれる。
- 【議長】 学校運営協議会と別組織にする方向で話を進める。その組織体の大きさの単位についての意見はあるか。学校運営協議会とは別物であるため、学校単位ではなく、公民館単位などの考え方もあるだろう。
- 【委員】 段階的に導入するのはどうか。ある地域で試行的に実施し、ロードマップを作成して推進していく方法もある。市全体でやるのか、中学校区単位でやるのか等、範囲を区切って実施し、上手くいったこと、上手くいかなかったことを数年後に評価して、その後に計画を組み直す方法もある。
- 【議長】 進め方としての一つの意見であるが、進めるにあたっては、組織体単位を考える必要がある。組織体の単位が決まらないとモデルを決めるこ

とも困難である。

【委員】 学校区から始めて、最終的に市で一つにまとめるより、最初から市で一つ大きな組織体を作り、各学校からの要望等を吸い上げて、実施する時に活動しやすい範囲に分かれて行う方が良いと考える。

【委員】 学校間によって地域差があることを踏まえて、中央に大きい組織はあってもいいが、もう少し分割した組織があった方が動きやすいのではないか。

【委員】 市が現状の学校の課題の吸い上げを行うための取組として、大きな組織を作り、地域差については学校運営協議会の方で検討して、それを吸い上げて、実行できると良いと考える。

【議長】 学校を起点に考える必要があるのか。地域と学校を同列に並べるのではなく、地域がメインであり学校もその地域のメンバーの一員であるという考え方もある。

【委員】 配布資料1のP1に「地域とともにある学校づくり」とあるが、これは学校側からの視点であり、「学校を核とした地域づくり」が地域学校協働本部として考えていくものである。地域づくり・まちづくりに学校が入ったらどうなるのか、どんなことが出来そうかの視点を入れて話し合える場にしていきたい。

【委員】 質問になるが、ここでの学校には、小・中・高校どこまで含まれるのか。小・中学校がメインであるような印象を受けているが、区切る必要もないと感じる。

【委員】 富士見高校は学校運営協議会に所属しているため、含めても良いのでは。

【委員】 小・中・高校を区切るのではなく、一体的に進められたらいいと考えているが、小・中学校ごとの課題もあるだろう。児童・生徒の個人単位ではなく、学校として参加することで考えるのか。

【議長】 個としても地域に関わるが、町会・企業が参加するイメージで学校も参加するイメージを持っている。現状の意見をまとめると、市で一つ統一的な組織もあっていいが、小中学校単位より大きい単位の規模感があり、地域差を考慮した上で、ブロック分けをする方向で考えていく。

【委員】 地域学校協働本部には、推進員を置くことになっているが、規模によって人数や役割が変わってくるかもしれない。推進員は地域学校協働本部においてどのような役割なのか。

【事務局】 推進員は、コーディネーター的な役割である。現在も地域で様々な活動を行っている人や団体があるが、それらの横のつながりを作り、推進員がファシリテーターのような役割を出来ると地域の課題解決や、地域の活性化にもつながるのではないかと認識している。

【議長】 推進員は地域学校協働本部がなくても、推進活動をやるためにコーディネーターとして活動しているケースはあるのか。

【事務局】 そのようなケースもあると考えている。

【議長】 推進員は必ずしも本部の取りまとめや責任者ではなく、横断的なプレイヤーとして活動するイメージである。誰がその役割を担えるのかを考えると組織単位も考えられるのではないかという意見でよいか。

【委員】 その通りである。

- 【委員】資料1のP2の図を見て感じたものだが、地域学校協働本部に参加しているメンバーとして挙げられている「文化団体・スポーツ団体・企業・NPO」は地域に結びついている団体よりも範囲が広いように感じる。地域学校協働本部は市全体で一つの大きな人材のプールを作り、推進員は学校運営協議会単位で1人または複数人いて、月1回程度で開催される定例会議の場に市内の推進員が全員参加し、取組や課題についての相談をしながら、地域の様々な団体とつながっていくイメージを持っている。
- 【議長】学校運営協議会がやりたいことをするために、本部から人を連れて来て、学校単位で活動する印象になってしまい、これだと学校のための取組になってしまう。
- 【委員】学校運営協議会単位ではなく、地域学校協働本部で呼びかけて、プロジェクト化し、その地域で取組を行う。例えば、まちフェスを地域の公園で開催するプロジェクトを行う際には、近隣の小・中学校の子どもに声をかけて参加してもらうこともあるだろう。
- 【議長】プロジェクトごとに集まるとしても、そのプロジェクトが行われるのが学校だと、地域づくりではなく学校づくりになってしまう。
- 【委員】地域学校協働本部とは、学校とは離れた場所で地域の方々子どもたちの学ぶ機会を提供する場と捉えており、現在学校でもクラブ活動に地域の方の参加、保護者会時に子どもの預かりを行う等、学校とは違う教育活動を提供する組織であると認識している。今現在でも、学校だけでなく公民館や団体がイベントなどを実施しているパターンもある。学校が新たな取組を実施するにあたって、地域に協力を求める際には、地域学校協働本部から地域に参加していく組織であるべきと考える。地域学校協働本部の単位は、動きやすいのがどの範囲なのか。地域で子どもたちを育てるにあたって、活動しやすい範囲がよい。
- 【議長】地域で子どもを育てる観点は重要である。一方で、資料1のP4の地域学校協働活動の例を見ると、現在もうすでに取り組んでいる内容が多くある。現在のままではなく、もっと参加者を増やして、今まで出来なかったような体験をしてほしい。
- 【委員】今までは、地域学校協働活動をまとめるものがなかったという認識でよいか。
- 【議長】おっしゃる通りである。推進員などのコーディネーターがいないため、各団体が単発で取組を行っている状況である。
- 【委員】今までの活動が、局所的・短時間すぎたのではないか。資料1のP2の図を見ると学校運営協議会と地域学校協働本部が対等のような印象を受けるが、地域学校協働本部の中に、学校運営協議会が組み込まれる認識ではないか。本部は市で一つだとしても、ある程度のエリアがあった方がよい。最初から本部を分けてしまうと本部ごとに交わらなくなるため、本部は一つで支部のようにブロックで分けるのがよいのではないか。
- 【委員】本部はどこに置くかという場所の話ではなく、人が交流する概念上のものである。月1回程度場所を決めて集まって交流することにより、様々な課題の解決や新しい取組等に繋がる。

- 【委員】全体を大きく考える案には賛成であるが、実行するには具体的な場所が必要であるため、公民館を巻き込み活用する方法も一つだろう。公民館はこれまで社会教育を推進してきたネットワークを持っており、地域学校協働本部の中で、公民館を活かしていく視点は大切になるだろう。
- 【委員】本部の開催日を公民館ごとに設定し、参加しやすい人が自由に参加する方式にすると、本部は一つだがエリアは四つに分かれるだろう。
- 【議長】それに加えて地域ごとの集まりもあっても良いだろう。公民館だけだとエリアに偏りが生まれてしまうのではないか。
- 【委員】交流センターも加えた方がエリアの偏りは生まれまいだろう。
- 【委員】局所的なものになってしまい、エリアの壁を越えられない気がしてしまい、一体感は出なくなってしまう気もする。共通の理念を持っていけばできなくもないが、各地域のやり方が出るだろう。
- 【委員】本部の理念を核に推進していくのであれば良いのではないか。富士見市としてのビジョンがあれば、トップダウンで各学校運営協議会に下ろし、議論を進めていく方法も可能ではないか。
- 【委員】トップダウンで実施する方がやりやすいとは思いますが、理想としては、地域の中で「どのような地域にしていきたいか」を話し合うことから何かが生まれてくる方が、活力ある取組になるのではないか。最終的には地域性になると思うが、自走できるまでは本部を一つで行い、地域に限定した話し合いを支部で行う。市からこういうまちを作りたいと言われて目指すのではなく、この組織は自分たちのまちを自分たちでつくることを理想としている場であるという共通理解をする必要がある。
- 【委員】やらされているのではなく、やりたいと思える場所でないといけない。
- 【議長】現在の意見のまとめとしては、組織単位は、本部は市で1つ、実際の活動はブロック分けする。実行する時はトップダウンではなく、地域がまちをどうしていきたいか描いて行う。公民館との関わりについては要検討。
- 【委員】地域学校協働本部では、富士見市に何をもたらしたいか、何のための組織かをイメージさせる必要があるだろう。
- 【議長】構成員については幅広くという認識で留めておき、本部のイメージと運営の仕方について提案し、検討の進め方について考えていく。資料2を基に検討の進め方を確認していく。
- 【委員】提言するにあたっては、他市の事例や富士見市にはどんなリソースがあるのかを把握する必要があるのではないか。
- 【議長】提言をするにも裏付けが必要ということだろう。
- 【委員】市民としてこうなって欲しいという提言でも良いのではないか。
- 【委員】どこか他市の先進的な取組事例を事務局は把握しているか。
- 【事務局】文部科学省のHPに様々な参考事例が示されている。
- 【委員】東京都の令和元年度地域学校協働活動推進事業報告書に地域学校協働本部が行っている事例を、多様な外部人材の確保と効果的な導入、教育環境の充実、教育活動の充実、放課後等の学習支援、コミュニティ・スクールとの連携の5つの分類に分けて掲載している。
- 【議長】近隣のふじみ野市の話は何うことは可能か。

- 【事務局】 ふじみ野市には元小学校長で現在は大学の教授をされているCSマイスターがおり、その方から地域学校協働活動の話も伺えるのではないかと。また、ふじみ野市は地域学校協働活動推進員を設置しているため、その方が実際にどのような活動をしているのか等の話を推進員から伺いたい旨を、ふじみ野市社会教育課に相談することも可能である。
- 【議長】 可能であれば推進員の方に会議に来てもらい、課題や進捗について話を伺いたい。
- 【委員】 CSマイスターの派遣制度もあるだろう。
- 【委員】 個人の力量が高すぎて、この人だから出来ているという事例もあるだろう。推進員の人全てが繋げる役割を担っている場合もあり、本部がない可能性もある。
- 【委員】 埼玉県内では中学校単位で、地域学校協働本部を作っているケースが多い。自治体によっては、過疎化の影響もあり、小・中学校が統合されているケースもある。児童生徒数の減少に伴い、将来的に小・中学校を統合していく流れを感じており、そのための地域学校協働本部なのではないかと勘繰っていた。児童生徒数の減少に伴い、空き教室が増え、デイサービスや学童のスペースとしている例もある。
- 【議長】 富士見市としての理想を考えていきたい。考えるにあたり、可能であれば直接ふじみ野市で活動されている方に話を伺いたい。
- 【委員】 本部の建て付け、どのような人が参加し、どのように運営されているのかを伺いたい。
- 【委員】 元小学校長などに話を伺うと、学校がしてもらった話が多くなってしまう。子ども達がどう育つかという視点も必要だが、学校応援団からの流れの影響もあり学校のためにしてもらおうという視点が強い。「子どもや学校が地域のまちづくりのために」という視点の話を伺いたい。学校が地域からどう応援されているかではなく、学校がまちづくりに参加していくという考えは、実現したら全国初の取組になるような先進的な話だろう。
- 【委員】 実際に学校がやりたいことはあるのか。
- 【委員】 学校はやりたいことはあるが、地域から学校とこんなことがしたいというのは言い出しづらいのだろう。
- 【委員】 子どもが企業のコンサルをするのも面白いだろう。
- 【委員】 小学生の高齢者施設への訪問などの機会はないのか。
- 【委員】 新型コロナの影響もあり、お互いに接点を無くしてしまった状態である。
- 【委員】 地域の住民が、子どもを教育しようという姿勢を持っていないのが現実である。ボランティアを依頼する時も、学生を育てたいという思いではなく、自分たちのために来てもらう考えになっている。地域の人たちが皆で子どもを育てていくという考えを持ち、子どもと一緒に取り組んでいくというものがないと難しいだろう。
- 【議長】 昔ながらの組織にはその発想はない。だからこそ新しい組織を作り、その組織に子どもたちも参加してもらおうことが必要であろう。
- 【委員】 教育しようという姿勢がなくても、行った先で子ども達が自然と学び、自分たちが地域に必要とされていることを感じるだけでも十分だろう。

【議長】子どもに教える役割は期待しておらず、現在は決められた行事の人手として参加しているだけの状況だが、子どもにも地域づくりに参加してもらうことが大切だろう。「検討の進め方」についてはまた次回話し合っていく。全部考えるのは難しいため、本部が目指すものとどのように運営していくかを考えてきてもらいたい。

3 その他

・各会議への参加報告

【委員】3月5日に富士見市生涯学習推進市民懇談会が開催された。第4次富士見市生涯学習推進基本計画（案）についてのパブリックコメントへの対応についての報告があった。今回で最後であったため、参加者が一言ずつ挨拶をした。

【委員】入間地区社会教育協議会については、会議の開催はなかったが、飯能市の退会はなくなったという報告を受けた。

・次回開催日程

4月7日（火）または4月8日（水）午後7時から中央図書館視聴覚ホールにて開催予定。